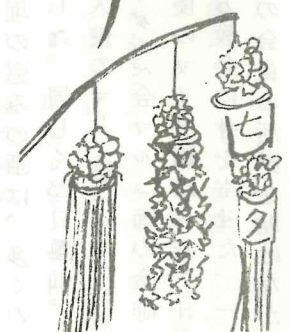


仙台司教区 教区事務所だより



(第 11 号)
昭和52年7月15日

佐藤司教

聖ペトロ墓参の旅に

仙台に教会が建設されて以来百年を迎える。百年祭記念ミサが、6月26日、司教座聖堂・元寺小路教会で挙げられたが、欧米巡遊の旅に上る佐藤司教様は、出発を前にして、この日、次のようなメッセージを教区民に寄せられた。

※ ※ ※

宮城県カトリック教会百年の歩み記念事業式典を挙行するに当たり、神の御摂理の「高さ・広さ・深さ」を今更に痛感させられ、また、多事多難な時代に辛苦を重ねてこられた諸先輩の宣教師たち、歴代の司教、司祭方、信徒・修道者の献身的な努力に新たな敬意、感謝の念を禁じ得

ません。

この式典を終えて、私は二か月の予定で海外旅行に出発いたします。仙台教区民を代表して教皇様に敬意を表わすための訪問を初め、仙台教区に関係する宣教会や修道会の各本部を歴訪して、感謝の意を表わしたいと思えます。

九月初旬に帰国してすぐ、四人の助祭の司祭叙階式が行なわれます。それは仙台教区の将来への希望を象徴しているように感じられます。

私の留守中は、司教総代理である土井文雄師が教区の責任者となりますので、必要あるすべてのことについては、私に対するのと同じように土井師に御連絡ください。旅行が無事に済んで帰国できますよう皆さまのお祈りをお願いします。

司教様の旅行予定

- 6月28日 東京ーモスクワ
- 6月29日 モスクワーワルシャワ
- 6月30日 ワルシャワークラコウ
- 7月2日 クラコウーワルシャワ
- 7月5日 ワルシャワーチューリッヒ
- ーローマ
- 7月12日 ローマーチューリッヒ
- 7月25日 チューリッヒーデュッセルドルフ
- 7月29日 ボンーパリ
- 8月2日 パリーブルド
- 8月4日 ルルドーパリ
- 8月6日 パリーニューヨークーモントリオール
- 8月28日 モントリオールーシカゴーメキシコ
- 9月6日 メキシコー東京(9月7日)

人事往来

✻ マルセル・ベランジェ師(白石教会主任・ケベック会)
昨年来、委嘱をうけて邦人司祭管

轄下の白石教会を司牧しているベランジェ師は、休暇のため、6月6日から9月15日までの予定でカナダに帰国した。その間、助任司祭ギ・ラポンテ師が主任を代行する。

ちなみに、ベランジェ師は、助任ラポンテ師と共に、パートで労働に従事、生活費を稼ぎつつ布教と司牧に献身している。ベランジェ師は洗たく工場に、ラポンテ師は卸品配達に、炊事も交替で行ない、日曜日は説教、パート外の時間にはカトリック要理を教え、一種の労働司祭である。両師の健闘を祈りたい。

✽ ヨハネ・ローネル師（水沢教会主任・ベトレヘム会）

6月10日から、5か月の休暇を得てスイスに帰国。その間、宣教会本部からヨハネ・シュルテンベルゲル師が主任を代行する。

出発前に、同師は教区事務所に、司教様のスイス滞在予定日をたずねてきた。山の好きな同師のこと、司教様をマッターホルンの頂上までも案内するつもりかも……。

✽ 土井健郎氏（東京大学医学部教授）

6月22日、宮城県カトリック教会「百年の歩み記念講演会」の講師として来仙。市民会館で、「甘えと信仰」と題して講演した。「甘えの構造」の著者。この本では、外国人の目には奇異にうつる日本人の心理を甘えの精神構造から分析しているが、講演では、正しい信仰を見抜く甘えの精神構造の卓越性と、甘えを越える信仰の厳しさについて話した。

✽ 小堀杏奴氏（随筆家 森鷗外の娘）

同じく、宮城県カトリック教会「百年の歩み記念講演会」の講師として来仙。土井健郎氏と共に、「偶然と摂理」について講演した。

御自身の改心の道程に出会ったいろいろなエピソードを混じえて、「この世に偶然はない」と言い切った神の摂理の恵みの話は、多くの聴衆を魅了した。同じく23日離仙。

✽ 天使のマリア嬢（マルコ師の姉）

グアダルペ会マルコ師の令姉に当たる天使のマリア嬢は6月1日来日。喜多方教会に身を寄せた。一年間、同会の会員の活動を助けながら、日

本の技芸を身につけようとしている。思いがけず、カラシのキイタ母国メキシコ料理が食べられることになったグアダルペ会の神父様方、会津若松で行なっていた月例会は、いつの間にか喜多方で行なわれるようになったとか……。

小野師

三番目の著書出版

切支丹研究ではかくれた権威である小野忠亮師（一関主任）は、三番目の著書を出版した。「宣教師・植物学者フォリー神父」―明治のカトリック北日本宣教師―がそれである。フォリー神父は、著者の母堂を信仰に導き洗礼を授けた人でもあり、著者にとっては信仰の父でもある。

フォリー神父は、植物学者として広く知られているが、著者は特に、宣教師としてのフォリー神父にスポットをあてて同書を著わしている。

同書は、明治における東北地方の諸教会の動行を知る上でも貴重なもの。二八八頁。上智大学切支丹文化研究会出版、定価一、五〇〇円。

「広報の日」を

終えて



5月22日(昇天祭)、教会は第11回目の「広報の日」を迎えた。

この「広報の日」は、第二バチカン公会議の勧告に基づき、「広報機関による教会の多種多様の使徒職が一層強化されるため」(「広報機関に関する教令」18頁)という目的で設定されたものである。

公会議はこの認識について、「教会の子らが、カトリックの新聞、定期刊行物、映画、ラジオ、テレビの放送局や放送番組を維持し、援助する義務を課せられていることを忘れないように」という形で注意を喚起している。なぜなら、

「カトリック広報機関の主要目的は、真理を広め、擁護すること、また人間社会をキリスト教的精神で満たす」ことであるからである。

広報の日、仙台教区内では次のような動きがあった。(事務所に報告されたもの)

元寺小路教会—信者一人一人に、「広報についての自覚」を促す内容のパンフレット(「広報の日を迎えるにあたって」) 広報委員長のあいさつが配られた。又ミサ中の説教は、行きすぎ、氾濫するコマージュルの渦の中にある危機に言及し、両親の責任の重大さが説かれた。

大河原教会—毎年、この日に、女子パウロ会の協力のもとに、書籍の展示即売をしているが、今年も協力を得て、展示即売が行なわれた。

西仙台教会—教会ぐるみの協力のもとに、書籍の展示即売を行なった。展示即売にあたっては、「キリスト教関係の良書展示即売会」の見出しのパンフレットを作り(五百枚)、近所の人々や、友人関係に配り、教会外の人々にも呼びかけたりした。

教区として、まだ大きな活動とはなっていないが、信仰を鼓舞し、人々の心をついにまとめ、真理を人々に伝える機能をもつこの重大な機関が、信者の正しい理解の下に、大きな力を発揮する日の来るのを期待するものである。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

—プロテスタントとの協力

聖書児童絵画展

白石教会

去る6月18日・19日、白石市民会館を会場として、聖書児童絵画展が開催された。

日曜学校・幼稚園の子供たちによる作品三百点余が出品され、子供たちの父兄をはじめ、六百名程の市民が会場を訪れた。

同絵画展は、聖書の言葉を少しでも知っていたいたくために、白石カトリック教会・日本キリスト教団白石教会・日本キリスト改革派白石契約教会が協力、企画したものである。

このような催しを前にして、20数年白石で牧会しているという一老牧師は、「このようにカトリックとプロテスタントが協力して一つのことを行なうのは、白石では初めてのことである」と、その喜びを語っていた。

なお、当日、聖書をはじめ、キリスト教関係の書籍も同時に展示即売された。



各地で

「研修会」開催

―カトリック幼稚園連盟

6月には、青森、岩手、宮城の各地で、教区付属幼稚園に働く、教諭の資質向上を目指す研修会が、相ついで行なわれた。

青森県では、6月8日から9日にかけて、浅虫温泉「松園」を会場として、150名の教諭が参集した。講師には早坂養吉氏（元寺小路教会信徒）が迎えられ、「子供のころとからだ」と題した講話は、氏の医者としての永年の経験を基とした性教育を中心とした実的な話で、大変有益であった。

岩手県では、6月21日・22日の両日、八幡平ハイツの会場に84名の教諭が集まり、講師佐久間彪師（東京教区司祭）の「幼児教育と宗教の世界」と題した講話を基に研修を行なった。従来のように、祈りや聖書の話を通り返すだけの教育に止まらず、だれの心にもある宗教性を大切に、伸ばすことの必要性が強調され、そ

れらについての反省が行なわれた。宮城県では、6月22日ナザレト幼稚園を会場として、行なわれた。

講師沢田茂師（札幌教区司祭）の「カトリック幼稚園の使命に添う先生の心構え」―子供とのふれ合いの中から―と題しての話は、同師自身が園長として子供たちと接して得た経験からにじみ出たもので、身にしみる具体的な事例が多く、102名の参加者は皆大きな感銘をうけた。

今年の研修会の傾向としては、幼児の心に潜む宗教性の芽に注目したものが多く、未受洗者の教諭方の教育とも相俟って、今後の課題と希望をうきぼりにしたものだ。

信徒の交流（仙台・新潟教区）

図られる

去る5月7日・8日、秋田、青森、岩手各県の信徒代表が八幡平温泉郷後生掛温泉（秋田県）に集い、秋田教会の及川神父（花巻教会出身）を囲んで、親睦が図られた。

仙台、新潟と教区は異なっても、

隣接する県として信者の交流があった方がよい。そして、そのことが相互の教会の信者にとって、広い意味の兄弟愛の結びつきを固めるために望ましい、との結論に達した。

そして来る8月20日・21日、同じ後生掛温泉で3県の信者の自由参加による親睦会を持つことを決定。「おらが教会を語る」をタイトルに大いに各教会の信徒に語ってもらいたい。多数の参加を乞う。

似内氏（花巻教会信徒）投稿

壮厳誓願宣立

猪股真知姉



6月17日（イエズスのみ心）、ドミニコ会雪の聖母修道院（福島県）聖堂で、同会員スール・マリー・マチ・ドウ・クリスト（俗名猪股真知姉）は、佐藤司教司式の下に、終生誓願を宣立した。同姉は布池教会（名古屋）出身、昭和43年受洗。昭和46年に同会に入会した。

寿庵祭

盛会裡に終わる



去る5月29日(聖霊降臨の祝日)残雪の焼石連峰から冷たい風が吹きおろす中、福原寿庵廟前(水沢市)に於て、寿庵祭が催された。

岩手・宮城の諸教会ならびに福原部落の人々、市当局関係者、併せて四百人位の参加者があり、一同心を一つにして、後藤寿庵の遺徳をしのびつつ、主キリストの復活を祝うミサにあずかった。説教の中で小野忠亮師(一関教会主任)は後藤寿庵の生涯を語り、「立派な武士・開拓者・宣教師の協力者」であったと結んでいる。

主催者の一人で、地元の人々と教会との協力を積極的に推し進め、あたかも坂本竜馬の如き役割を演じたローネル師(水沢教会主任)は次のように語っている。「こんなにたくさんさんの、いろいろな方々の協力によって実行できたこと、感謝します。今までで一番こころに残ります。教

会のまつりが水沢のまつりとなりませす。布教のことを考えると、一つの大きなチャンスです。今後も大いに……」

なお、秋には福原農事実行組合主催で秋の寿庵祭(9月11日)が行なわれる。

▲後藤寿庵▼

ローマのイエズス会文書館に保存されている報告書のうち、元和3年(一六一七年)10月19日の項に、仙台領に七か所の教会と75名の信者がいたということが記されている。

また、元和7年(一六二二年)8月14日、奥州の信徒からローマ法王パウロ五世に送られた奉書の中にも、信徒代表17名の筆頭に後藤寿庵の名前が記されている。

当時、後藤寿庵は仙台領見分(岩手県水沢市)に住み、胆沢郡一、二〇〇石の領主だった。そして、イエズス会のアンゼリス神父や、カルワリオ神父のよき協力者でもあった。

彼がここに住むようになったのは、天正18年(一五九〇年)秀吉の小田

原征伐の後、領地を没収され九州へ逃れたが、五島で洗礼を受けた彼は、やがて奥州の伊達政宗に仕えるようになってから見分の地に移り、客分としてこの地に封ぜられたからである。

元和9年(一六三三年)仙台領でキリシタンの迫害が起こった時、彼は信仰のため、地位も名誉も捨てて、南部領か佐竹領へ逃れた。

しかし残念なことには、その後の彼の動静についての記録は発見されていない。

だが、彼が宣教師の指導で築いた灌漑用水堀「寿庵堰」は、今日でもなお水沢地方の農民に恩恵を与えている。

ちなみに、大正13年2月、寿庵はその功績により従五位に叙せられている。

ローマ留学

平賀徹夫師



7月7日(木)、平賀徹夫師は、ローマ・ウルバノ大学で教会法の勉

学のため、羽田を出発する。

勉学期間は3年の予定。

新学期は10月から始まるので、それまでの間、ローマの北方、ペルージャでイタリア語を修得する。

師は、岩手県・花巻教会の出身。

昭和49年に司祭に叙階され、その後一関教会助任、西仙台教会主任代行を経て、52年4月司教館付に任命され、渡航準備をしていた。

ローマにおける同師の住所は左記の通りである。

Rev, Fr, Tetsuo HIRAGA
Collegio S, Paolo Apostolo
Via Torre Rossa, 40
00165 ROMA,
ITALIA

―協議会紹介―

「正義と平和協議会」

について

最近、金大中氏事件などと関連して、カトリック新聞紙上しばしば、「正義と平和協議会」という名称が目につきます。

この協議会は、一九六七年一月六

神学講座の

ご案内



時 8月23日～8月27日

場 所 元寺小寺教会信徒館

テ ー マ 日本人の霊性とキリスト教

講 師 佐久間彪師(東京教区司祭)

粕谷甲一師(東京教区司祭)

小幡義信氏(元寺小寺信徒)

佐藤守也師(仙台教区司祭)

会 費 4回受講 二千元

主 催 仙塩地区教会代表者合同会

議・神学講座実行委員会

日、教皇パウロ六世によって設立されたもので、発展と平和の諸問題に対する理解を、特に教義上、司牧上、使徒職上の領域で深めることをその目的の一つとしています。

設立以来10年間、各国の司教団によって準備が整えられ、日本では、相馬司教(名古屋教区長)が会長となり、各教区には担当司祭が任命されています。

正義と平和に関する諸問題を、国

内問題に限らず、国外の問題についても、それぞれの国と連絡をとりつつ、解決に努力をしています。今までの取り上げられ、解決をみた諸問題としては、司法試験に合格しながら、研修生になることを拒否された在日韓国人(金敬得さん)の問題、また、マニラで住民の要求を代弁しようとして逮捕された11名の指導者の逮捕問題(この事件に関しては、今年の4月来日したマルコス大統領に正義と平和協議会より抗議声名文を出したが、その後、これら11名は釈放された)などがあります。その多くは、教会が世に神の国を建設しようとする時、具体的に直面する諸問題で、献身と努力と祈りを必要とする仕事です。

皆様の理解と協力を必要とします。

正義と平和協議会

教区担当司祭

フォーレ神父(一本杉)

.....

仙台司教区事務所だより第11号

昭和五十二年七月十五日発行

発行所 仙台司教区事務所

〒980 仙台市本町一丁目2番12号

Tel 0222 22 7371